

2019年3月期 第2四半期決算説明会

2018年12月5日



イメージ情報開発株式会社

東証JASDAQ：証券コード 3803

I グループ概要

II 2019年3月期 第2四半期決算概要

III アイデポルテの連結除外

IV 新株予約権行使状況

V 中期経営計画（計数計画）

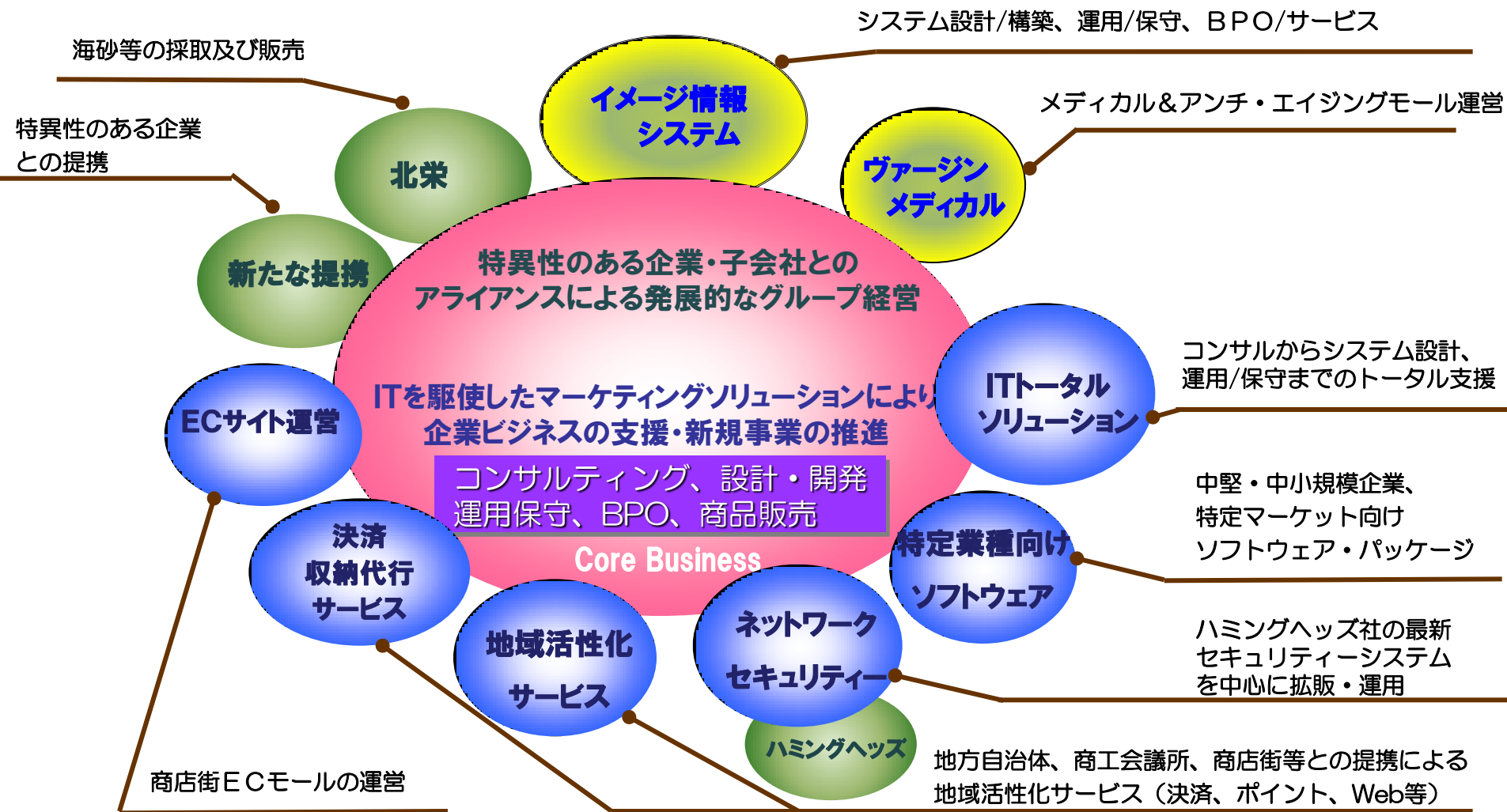
VI 今後の中期戦略

【設 立】	1975年（昭和50年）10月
【代 表 者】	代表取締役社長 代永 衛
【資 本 金】	5億9,605万円（2018年11月30日現在）
【事 業 内 容】	情報システムの設計/開発、運用/保守、BPO/サービス
【本社所在地】	東京都千代田区神田猿樂町 2-4-11 犬塚ビル
【子 会 社】	イメージ情報システム株式会社、株式会社ヴァージンメディカル、
【沿 革】	1975年10月 会社設立 1976年 4 月 JPLデータとイメージデータを複合処理する事業を開始 1980年12月 本社事務所を東京都港区新橋に移転 1984年 4 月 システムインテグレーション事業に進出 2004年 4 月 セキュリティサービス販売を開始 2006年 4 月 大阪証券取引所(現東京証券取引所)JASDAQに株式上場 2009年 5 月 本社事務所を東京都港区芝大門に移転 2009年12月 イクオス株式会社（現株式会社ヴァージンメディカル）設立 連結子会社化 2011年 7 月 本社事務所を東京都千代田区神田猿樂町に移転 2013年10月 株式を200分割 2017年10月 新設会社分割によりイメージ情報システム株式会社を新設 2017年10月 株式取得によりエクストップエスオー株式会社（現株式会社 アイデポルテ）を連結子会社化 2018年 3 月 第1回新株予約権を発行 2018年11月 株式会社アイデポルテを連結除外 2018年11月 第1回新株予約権行使完了により資本金5億9,605万円

イメージ情報開発グループについて



「システム設計・構築を基盤にマーケティング機能を付加した総合サービスによる企業ビジネスの支援」、
「自社製品の販売・サービス提供」、「特異性のある、子会社の育成、他企業とのシナジー」で構成します。



- I グループ概要
- II 2019年3月期 第2四半期決算概要
- III アイデポルテの連結除外
- IV 新株予約権行使状況
- V 中期経営計画（計数計画）
- VI 今後の中期戦略

【単位：百万円】

	2018年3月期 年度末実績	2019年3月期 第2四半期末実績	対前期末比	
			増減	増減率 (%)
資産合計	387	360	△26	△6.8
流動資産	239	235	△3	△1.4
固定資産	148	125	△23	△15.5
負債合計	313	290	△23	△7.3
流動負債	156	133	△24	△15.0
固定負債	157	157	1	0.4
純資産合計	73	69	△3	△4.7
負債純資産合計	387	360	△26	△6.8

- ✓ 流動資産：受取手形及び売掛金 14百万円減、現金及び預金 12百万円増
- ✓ 固定資産：アイデポルテの「のれん」17百万円減、長期貸付金 6百万円減
- ✓ 流動負債：短期借入金 10百万円減
- ✓ 固定負債：長期借入金 12百万円減、預り敷金保証金 8百万円増、
- ✓ 退職給付に係る負債 4百万円増
- ✓ 純資産：新株予約権の行使による自己株式の処分 42百万円増、
非支配株主持分連結子会社の増資 15百万円増、四半期純損失61百万円減

【単位：百万円】

	2018年3月期 第2四半期実績	2019年3月期 第2四半期実績	対前期比	
			増減	増減率 (%)
売上高	416	348	△68	△16.3
売上原価	357	321	△36	△10.0
売上総利益	59	27	△32	△53.9
販売管理費	53	81	28	51.2
営業利益	5	△53	△60	—
経常利益	6	△53	△60	—
親会社株主に帰属 する当期純損失	△308	△61	247	—

- ✓ 売上高：システム設計/構築売上高が減少、その他事業は堅調に推移
- ✓ 利益：売上原価率上昇（85.7%⇒92.1%）及び前四半期にはなかったアイデポルテの販売費及び一般管理費が増加し、営業利益、経常利益の黒字を確保できず
アイデポルテの関係会社整理損を特別損失に17百万円計上したことにより、親会社株主に帰属する当期純損失は61百万円となる

■ 当第2四半期連結業績

◎ 売上高 815百万円(前期:804百万円)

(単位: 百万円)

	コンサルティング /設計/構築	運用/保守	商品販売	BPO/ サービス	合計
2017年3月期第2四半期	225	50	109	83	470
2018年3月期第2四半期	281	49	5	79	416
2019年3月期第2四半期	188	53	25	81	348
前年同期比	67.1%	106.1%	449.0%	102.3%	△16.3%

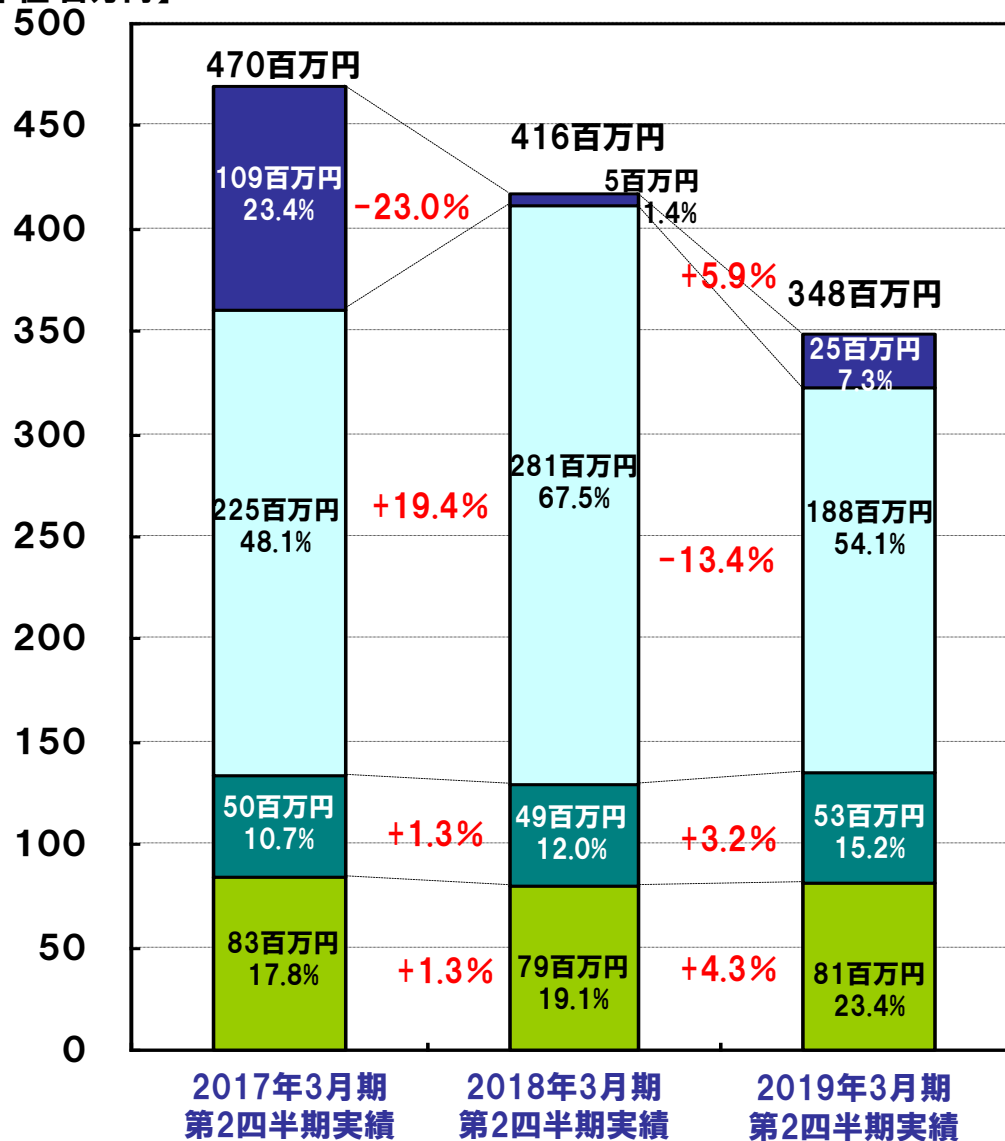
◎ コンサルティング/設計/構築は後半回復をめざす

◎ 商品販売はヴァージンメディカルの化粧品販売が今期から再開し増加

売上構成【連結】



【単位:百万円】



商品販売

化粧品販売による増加

コンサルティング/設計/構築

2018年3月期は10月からのアイデ
ポルテ加算もあり増加

運用/保守

堅調に推移

BPO/サービス

地域商店街等向けクレジット決
済サービスの増加を図る

【単位：百万円】

	2018年3月期 第2四半期実績	2019年3月期 第2四半期実績	対前期比 増減
営業活動によるキャッシュフロー	△ 2	△35	△33
投資活動によるキャッシュフロー	△ 34	11	46
財務活動によるキャッシュフロー	△10	46	57
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△47	21	70
現金及び現金同等物の四半期末残高	65	96	31

- ✓ 営業活動CF：税金等調整前当期純損失 △71百万円
- ✓ 投資活動CF：定期預金の減少 10百万円
- 貸付金の回収による収入 9百万円
- ✓ 財務活動CF：借入金の返済による支出 △21百万円
- 自己株式の処分による収入 43百万円
- 非支配株主からの払込による収入 25百万円

- I グループ概要
- II 2019年3月期 第2四半期決算概要
- III アイデポルテの連結除外
- IV 新株予約権行使状況
- V 中期経営計画（計数計画）
- VI 今後の中期戦略

当社は、2017年10月にエクストップエスオー株式会社（現アイデポルテ社）の発行済株式数の50.0%を取得し、当社役員が過半数を占めることから子会社化いたしました。

同社の2018年3月期（2017年10月～2018年3月）業績では、スポーツ関連事業のシステム開発を継続的に受注し、かつ臨時的な受注もあったことから売上高82百万円、当期純利益6百万円を計上しましたが、2019年3月期では継続的な受注が2018年8月まであり、その後は発注元の業績不振により受注停止となりました。この結果、2019年3月期第2四半期の同社の売上高は28百万円、営業損失7百万円、経常損失6百万円、四半期純損失6百万円であり、現状の継続では好転する見通しがたっておりません。

この状況を踏まえ、当社が保有するアイデポルテ社の全株式を売却することが最善であると判断し、2018年11月9日に連結除外いたしました。

これに伴い、2019年3月期第2四半期連結決算において17百万円の関係会社整理損17百万円を特別損失に計上いたしました。

なお、連結子会社除外にあたり、同社取締役兼務の当社役員2名は辞任いたしました。

- I **グループ概要**
- II **2019年3月期 第2四半期決算概要**
- III **アイデポルテの連結除外**
- IV **新株予約権行使状況**
- V **中期経営計画（計数計画）**
- VI **今後の中期戦略**

当社は、2018年3月15日にイメージ情報開発株式会社第1回新株予約権3,500個（350,000株）を当社代表取締役代永衛氏を割当先として発行いたしました。

行使状況と資本金等の推移

【単位：千円】

行使日	行使数	行使価額	資本金増加額	資本準備金増加額
※1 2018年8月10日	500個 (50,000株)	43,000	—	—
※2 2018年11月7日	1,200個 (120,000株)	103,200	51,600	51,600
※3 2018年11月30日	1,800個 (180,000株)	154,800	77,400	77,400

※1 自己株式を処分したため、資本金及び資本準備は増加しておらず、自己株式は42,349千円減少しております。

※2 合同会社ワンダー2号に新株予約権を譲渡し同日行使されております。

※3 ネクストフィールド株式会社に新株予約権を譲渡し同日行使されております。

- I グループ概要**
- II 2019年3月期 第2四半期決算概要**
- III アイデポルテの連結除外**
- IV 新株予約権行使状況**
- V 中期経営計画（計数計画）**
- VI 今後の中期戦略**

2019年3月期の通期業績予想【連結】



(単位：百万円)

	2018年3月期 (実績)	2019年3月期 通期予想			
		上 期	下 期	通 期	前年比(%)
売上高	815	348	494	842	103.4
営業利益	4	△53	32	△21	—
経常利益	5	△53	32	△21	—
親会社株主に帰属 する当期純利益	△320	△61	79	18	—

- 受注案件受入増に伴う社内人材の増強と外部人材リソースの活用
- 大型業務受託案件の確実な取り込み
- 貸付金回収による貸倒引当金の戻入

コンサルティング/設計/構築

- ・新規取引先の拡充と新規案件の受注拡大
- ・外部人材リソースを活用した受注規模拡大
- ・パッケージ商品のカスタマイズ受注の推進
- ・売上原価率上昇の歯止め

運用/保守

- ・システム構築後の保守業務受託
- ・ECサイトメンテナンス業務の維持、拡大

プラットフォームビジネス

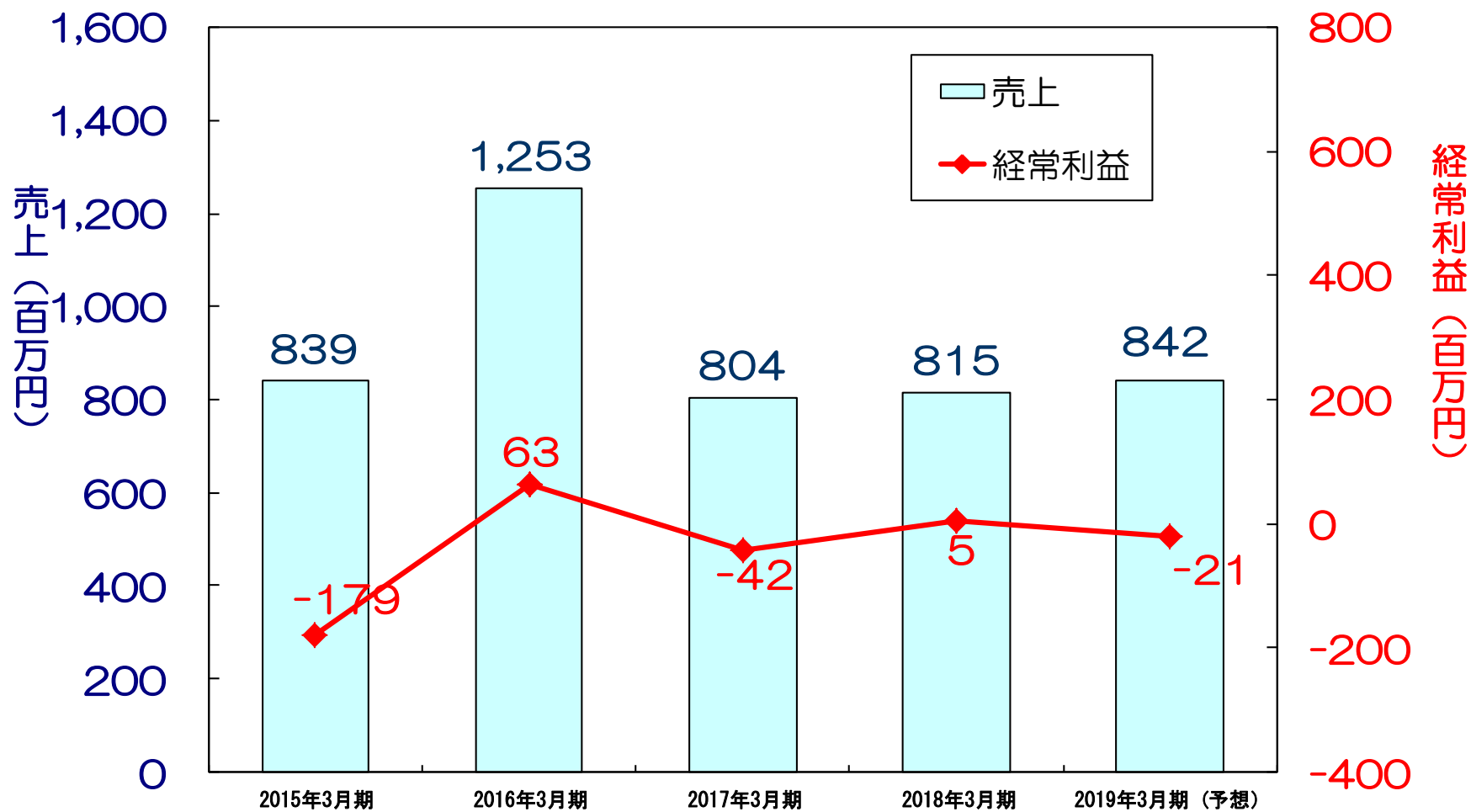
- ・セキュリティプラットフォーム
- ・地域活性化プラットフォーム
- ・ヴァーチャルリアリティ ネットワーク化（検討中）

商品販売

- ・セキュリティソフトライセンス販売の強化
（自治体営業強化／販売代理店拡大）

BPO/サービス

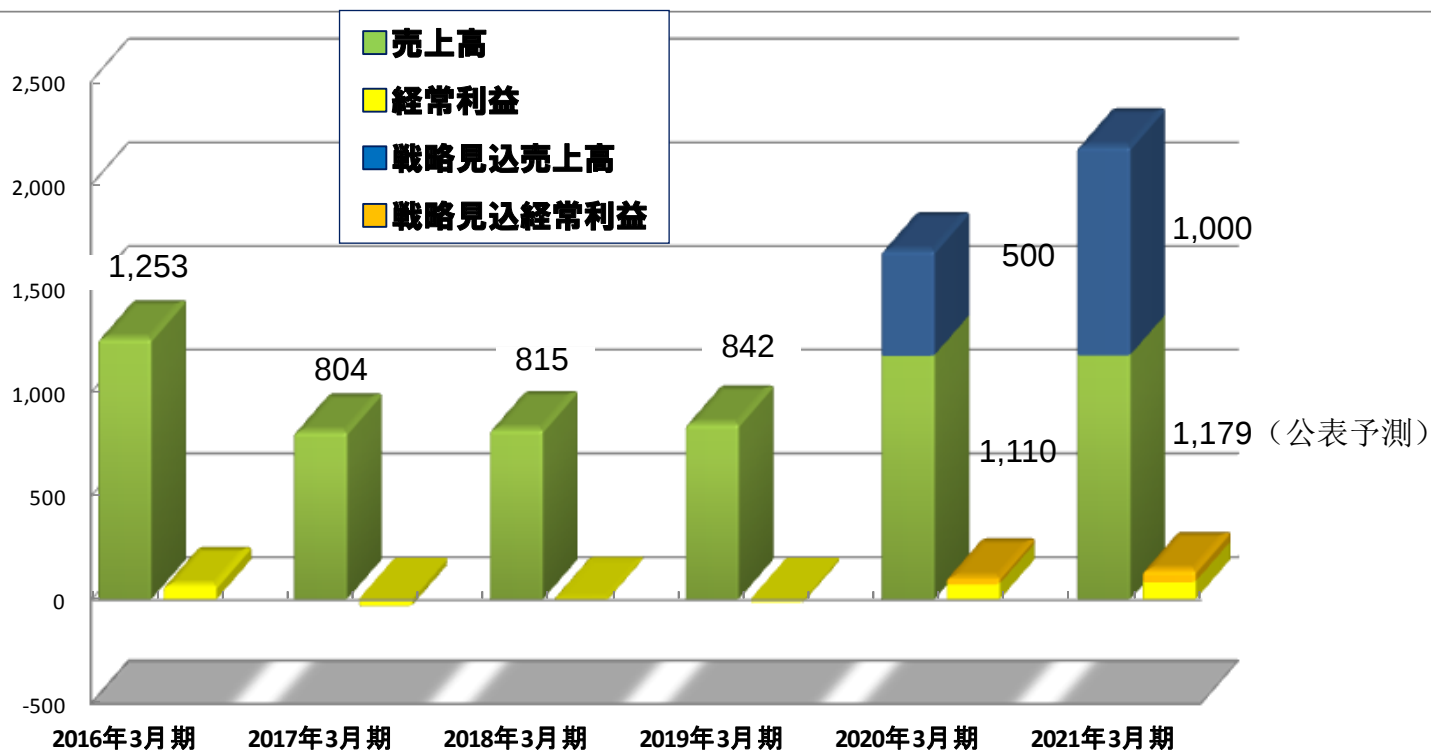
- ・決済方法多様化の開発
- ・決済サービスを活用した新たな受注先の
開拓



3か年計数計画



■ 平成30年3月期	売上高	815百万円、	経常利益	5百万円
■ 平成31年3月期	売上高	842百万円、	経常利益	△21百万円
■ 平成32年3月期	売上高	1,610百万円、	経常利益	101百万円
■ 平成33年3月期	売上高	2,179百万円、	経常利益	136百万円

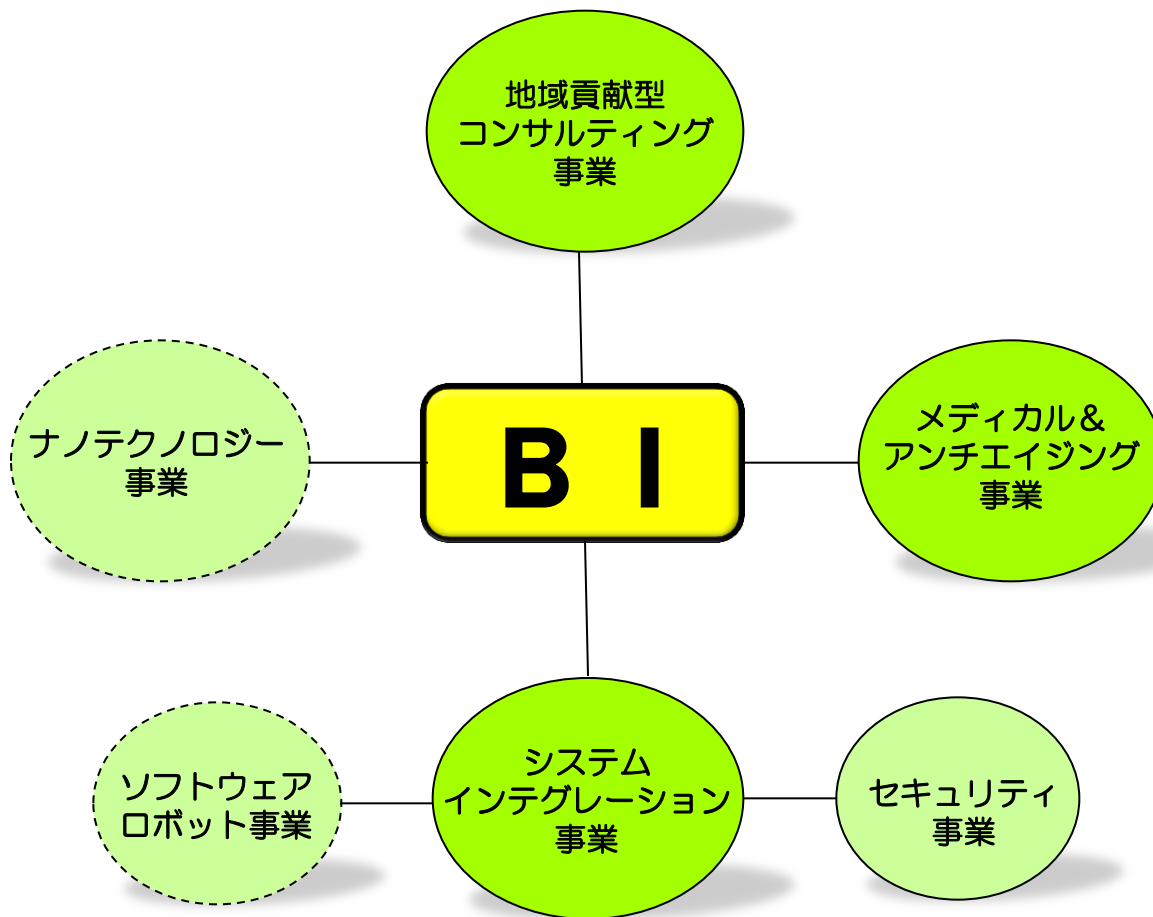


- I グループ概要**
- II 2019年3月期 第2四半期決算概要**
- III アイデポルテの連結除外**
- IV 新株予約権行使状況**
- V 中期経営計画（計数計画）**
- VI 今後の中期戦略**

「システムインテグレーター」から「ビジネスインテグレーター」へ

ビジネスインテグレーションとは、革新著しいITを駆使した新機能やサービスを統合し、新しいビジネスモデルを創出することを意味します。

私たちは、これからの未来に向けて、独創的で高付加価値なサービス、製品を実現するため、様々なビジネスプラットフォームの構築に着手しています。



成長ビジネスへの積極転換(1)

1.コアビジネスの規模・機能の大幅拡充(システムインテグレーション事業)

「ビジネスインテグレーション」の実現を目指して

さまざまな経営やシステムの課題は、個別に考えるのではなく、常に同時にデザインし、相乗効果を最大限に発揮させることが必須となります。例えば、近年企業の課題となっているコンプライアンス（法令遵守）やセキュリティ対策においても、単にやらなければならないこと、コストアップ要因としてとらえるのではなく、企業全体の最適化の一環としてとらえ、業務プロセスやシステムの改善も同時にすすめ、トータルでのコストダウンや競争力の強化に結びつけるべきです。

当社は、企業のITパートナーとして、特定ベンダや製品に依存しない中立な立場をとり、戦略からシステム構築、構築後の運用や事業戦略に沿ったその後の拡張に至るまで、これらを総合的に支援し、最適な経営環境を実現する、先進ITを駆使するビジネスインテグレーションを実現いたします。

成長ビジネスへの積極転換(2)

2.地域貢献型コンサル事業の長期継続的成長（沖縄北栄等）

3.先行投資事業の拡大・収益化(メディカル＆アンチエイジング事業)

「メディカル＆アンチエイジングモール銀座」を展開しています

私たちは、医療、健康、癒しのサービス事業者が集結する複合モールを東京・銀座で展開しています。不動産の賃貸のほか、予約管理、集客支援、販売商品の提供や開発支援など、他企業とのアライアンスにより、スタートアップのお客様でも起業に必要な様々な機能をオールインワンでご提供いたします。

新規分野へのチャレンジ

1.IoT関連事業（ネクストフィールド社と提携検討中）

2.ソフトウェア・ロボット事業（ハミングヘッズ社と提携検討中）

本日は、ありがとうございました。

＜お問い合わせ先＞

担当窓口： イメージ情報開発株式会社

常務取締役 経営管理室長 佐藤 将夫

TEL : 03 - 5217 - 7811

FAX : 03 - 5217 - 7816

URL : <http://www.image-inf.co.jp/>

本資料には、将来にわたる見通しに関する記述が含まれております。これらは現時点での予測であり、実際の業績は、今後の経済動向やその他の社会・政治情勢など様々なリスクや不確定要素により、見通しとは異なる結果となる可能性があることをご了承ください。